

第5学年1組 社会科学習指導案

日 時 平成25年11月22日(金)

在籍児童数 男子8名 女子8名 計16名

指導者 教諭 市川 宝生

1 単元名 「わたしたちの暮らしと工業生産」

小単元名 「自動車をつくる工業」

2 小単元について

(1) 教材観

本小単元における目標は、「様々な工業製品が国民生活を支えていること」「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」について調べ、我が国の工業生産が国民生活の向上や産業の発展に果たしている役割を考えることができるようにすることである。「様々な工業製品が国民生活を支えていること」とは、我が国の工業生産と国民生活とのかかわりを取り上げ、様々な工業生産が国民生活を支えていることを具体的に調べることであり、「工業生産に従事している人々の工夫や努力」を調べるとは、工業の盛んな地域の事例を取り上げ、我が国の工業生産に従事している人々が、消費者の多様な需要にこたえ、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを調べることである。また、「工業生産を支える貿易や運輸などの働き」とは、原材料の確保や製品の販売などに見られる貿易や運輸などの働きを取り上げ、貿易や運輸などが工業生産を支える大切なはたらきをしていることについて国民生活や産業を支えている各種の工業製品が、それに従事している人々の様々な工夫や努力、貿易や運輸などの働きに支えられて生産されていることを調べるとしている。いずれの場合も、工業の盛んな地域の具体的事例を通して学習を進める。本小単元では、機械工業の中の自動車工業を具体的事例として学習を進める。

(2) 児童観

本学級の児童は、素直でまじめに学習に取り組むことができる。どの教科においても、意欲的に取り組む様子が見られる。社会科の学習では、これまで、内容(1)ア・イ、(2)を学習してきた。米作りについての学習では、田植え、稲刈りの体験を行い、米作りの努力や工夫について具体的な学習を進めてきた。水産業の学習では、焼津港のカツオ漁や浜名湖のウナギの養殖業の具体的な事例を基に、水産業に携わる人々の工夫や努力について調べ、考えてきた。児童は両単元ともに興味・関心が高く、意欲的に学習に取り組んでいた。調べ学習の進め方、学習問題に対する結論を導き出すことなど、学習の進め方を身につけられるように学習を重ねている。しかし、学習して得た知識や見方や考え方を活用して自分の考えを論理的に組み立て、表現したりすることや、自分の考えを友だちに伝えたりすることに課題がある。

(3) 指導観

本小単元は、自動車をつくる工業の具体的事例を通して我が国の工業生産が国民生活の向上や産業の発展に果たしている役割を考えることができるようにする。本年度は自動車工場見学を実施することが不可能であるため、ホームページやパンフレットなどの資料から調べたことを有機的に取り入れ、学習を深めたい。

「つかむ」段階では、身の回りの物を種類ごとに分類する活動を通して、生活に関わるほとんどのものが工業製品であること。新聞記事やCM、新聞広告の資料や自動車の生産台数・日本の自動車普及率などのグラフから、自動車は、私たちの生活に欠かせないものであることを知り、「どのよ

うにつくられているのだろう。」といった問いをもち、学習問題を立てさせたい。さらに、学習問題の予想を既習の知識や生活経験からもたせ、学習計画を立てることで学習に見通しをもてるようにしたい。

「調べる」段階では、学習問題に即して調べ学習が進められるように「工夫・努力、仕組み」をキーワードにして、調べている内容が大きくずれないようにしていきたい。学習して得た知識や見方や考え方の関連を考え、工業生産と自分たちの生活学習が結びついていることを意識しながら学習を進めていきたい。

「まとめる」段階では、学習問題の結論を導き出すために、調べて得た社会的事象や社会的事象の意味、工業生産に携わる人の工夫や努力の関連を関連図に表す活動を行う。関連図にすることで、学習内容を可視化し、結論を導き出す手立てとしたい。

「生かす」段階では、これまで学習したことを活用し、『みんなにとってよりよい未来の車を設計しよう』という課題で、未来の車を設計する学習を行う。公共的・環境的・安全性を考慮に入れながら学習を進めていく。夢物語でなく、日本の自動車工業の努力や工夫、特徴や消費者のニーズ、環境や安全性について考える。未来の自動車を設計する思考活動を通して、参画する資質の基礎へとつなげていきたい。

また、本校では研究課題でN I E教育を進めている。そこで、本小単元の学習においても、つかむ段階で自動車産業に関する新聞記事から興味関心を高め、主体的に問題解決的な学習を進められるようにしたい。調べる段階では、環境や安全性に配慮した自動車の開発等に関する記事などを活用し、実生活や自分たちの生活との深い関わりを感じ取らせたい。

3 小単元の目標と評価規準

(1) 小単元の目標

自動車工業の生産の様子について関心をもち、見学・地図・統計・資料などを活用して意欲的に調べ、学習したことを関連図やパンフレットなどにまとめる。また、原材料の確保や製造の過程、製品の販売や消費地への輸送、新しい技術の開発、資源の有効な利用と確保、環境保全への取り組みなどにみられる工夫や努力、貿易や輸送などが工業生産を支える大切な働きをしていることを理解し、工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて思考・判断したことを言語などで適切に表現し、これからの自動車工業のあり方について考えようとする。

(2) 小単元の評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
評価 規 準	・自動車生産の様子に関心をもち、意欲的に調べ、これからの自動車工業の在り方について考えようとしている。	・自動車工業の生産の様子から学習問題を見出し追及し、我が国の工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	・自動車工業に従事している人々の工夫や努力と自動車生産を支える貿易や運輸の働きについて、見学、写真・地図、統計資料などを活用して調べ、まとめている。	・工業生産に従事している人々が、消費者や社会の多様なニーズにこたえ、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることや、貿易や運輸の働きが我が国の工業生産を支えていることを理解している。

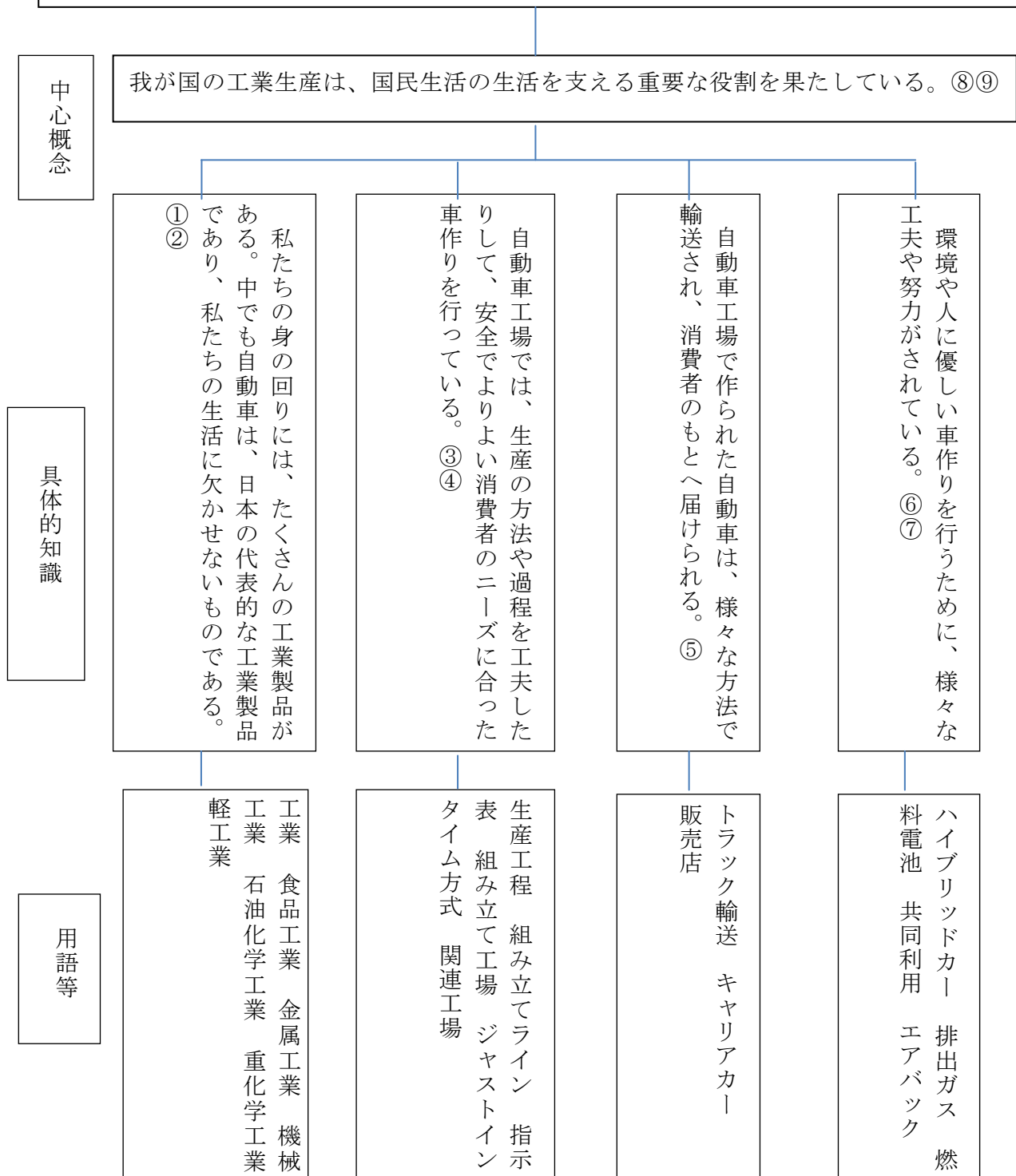
具 体 の 評 価 規 準	①自動車生産の様子に関心をもち工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きについて意欲的に調べようとしている。 ②これからの自動車工業の在り方について考えようとしている。	①自動車が国民生活に欠かせないことや自動車の販売台数・普及率から学習問題や予想、学習計画を考え、ノートに表現している。 ②調べた社会的事象同士の関連を関連図にまとめ、学習問題の結論を考えノートに表現している。 ③これまでの学習と関連づけて、これからの自動車について考え、設計図に表現している。	①自動車工場を見学したり、資料を活用したりして調べたことから、働く人々の工夫や努力を読み取りまとめている。 ②資料などから調べたことをもとに、自動車をつくる工業の工夫や努力についてノートにまとめている。	①部品をつくる過程やその輸送について調べ、1台の自動車をつくるために多くの工場が連携していることを理解している。 ②工業生産に従事している人々が、消費者の多様な需要にこたえ、よりよい製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解している。
--	---	---	---	--

4 知識の構造図

【学習指導要領】

内容(3)我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き



①は学習問題をつくる ②は学習計画を立てる

5 本校研究主題との関連

◎研究主題

自分の思いや願いをよりよく伝え合える児童の育成

<手だて1 話し方・聞き方の指導を徹底する。>

※話し方、聞き方をパターン化する。

○話し方

- ・聞こえる声で話す。
- ・聞く人の方を見て話す。
- ・最後まではっきりと話す。「～です。」
- ・理由を話す。「理由は～だからです。」
- ・つけたして話す。「つけたします。」
- ・わかりやすく話す。「まず、次に、」

○聞き方

- ・話す人の目を見て聞く。
- ・最後までしっかり聞く。
- ・相づちを打ちながら聞く。
- ・自分の考えと比べながら聞く。
- ・よい点を探しながら聞く。
- ・よりよい方法を考えながら聞く。(高)

<手だて2 話し合いの形態を工夫する。>

※児童の実態や活動内容によって、3つの話し合いの形態を適切に取り入れる。

○ペア学習

友だちの考えを知り、自分の考えに生かす。

本時では、自分の作成した関係図について、その作成意図を伝え合い、ペアと相談しながら関係図を再構成していく。

○グループ学習

個人の考えを広げ、深めたり、それぞれの良さを1つにまとめたりする。

本小单元では、身の回りの工業製品について、グループで話し合いを通して分類わけする。

○全体学習

多様な考え方を知り、自分の考えを明確にしたり、よりよい考えを創り上げたりする。

本時では、ペアで作成した関連図を学級全体で共有し合い、多様な考えに触れることができるようにする。

<手だて3 自分の考えや思いを書き表す。>

※関連図に表したり、文章で表現したりする。

○関連図で表現する

社会的事象をつなぎ、関連図に表し、関係性を可視化できるようにする。

○文章で表現する

学習問題の結論を関連図をもとに文章に表すことで、自分の考えを論理的にまとめられるようにする。

<手だて4 言語環境を整備する。>

※言語環境の整備を計画的・継続的に行う。

○学習内容の掲示

学習内容を常時教室に掲示することで今まで学習したことの内容を簡単に振り返ることができるようにした。用語の定着にもつながられるようにする。

○新聞記事の活用

自動車産業に関する記事などを活用し、実生活や私たちの生活との深い関わりを感じ取れるようにする。

○国語辞書の活用

辞書を使い言葉の意味を理解するとともに、社会的事象の意味を理解することができるようにする。

6 小単元の指導計画と評価計画

過程	時	○学習活動・学習内容 ★言語活動充実の視点	評価計画 方法
		(課外)家にある、身近なものの調べを行う。	
つかむ	1	○身の回りのものの調べから、ほとんどの物が工業製品であることを知る。 ・調べてきた物を、食品工業・金属工業・機械工業・石油化学工業に分類すること。 ・ほとんどが工業製品であること。・生活とのかかわりが深いこと。	(関①) 〈行動・ノートの記述〉
	2	○CM や新聞の記事や広告、生活経験、グラフの読み取りから自動車は日本の代表的な工業製品であることを知り、学習問題を考え、学習計画を立てる。 ・新聞記事にしめる割合から自動車工業は日本の中でも主要な工業製品であること。 ・日本の自動車の生産台数の推移や普及率の変化を読み取ること。 ・学習問題を考えること。 <学習問題> 私たちの生活に欠かすことのできない自動車は、どのような工夫をしてつくられ、どのようにして私たちのもとへとどけられるのだろうか。 (□児童の予想) →(学習内容) □作り方に工夫がある。→組み立て工場の見学・生産の仕組みや工夫。 □たくさんの工場で分担している。→関連工場との連携 □つくっている人の工夫がある。→組み立て工場・関連工場の工夫や努力 □トラックや船などを使って届けられる。→車の輸送の仕組み、海外の現地生産	(思①) 〈発言・ノートの記述〉
調べる	3 ・ 4	○生産の仕組みや関連工場の生産の仕組み工夫について調べる。 ・生産工程 ・組み立てライン ・指示票 ・効率よく生産すること ・間違わない工夫 ・より良い車を生産する工夫 ・機械を活用していること ・安全の工夫 ・ジャストインタイム方式 ・働いている人の努力 ・組み立て工場からの情報を基に生産していること ・部品の流れ	(技①) 〈ノートの記述〉 (知①) 〈ノートの記述〉
	5	○完成した自動車を消費者のもとに届ける輸送の方法を調べる。 ・注文して、消費者に届くまでの流れ ・自動車の輸送方法 ・販売される自動車の価格や費用 ・海外での生産	(技②) 〈ノートの記述〉
	6 ・ 7	○自動車開発について調べ、自動車会社の工夫や努力について考える。 ・環境にやさしい車 ・人にやさしい車 ・社会や消費者のニーズを考えた開発を行っていること	
まとめる	8	○自動車が自分のところに届けられるまでを関連図に表現する。 ・学習したことをもとに、自動車が届けられる仕組みを図に描くこと。 ・社会的事象同士の関連を考えながら、それぞれを結ぶこと。	(思②) 〈関連図・ノートの記述〉

・生かす			述)
	9 本時	○前時に作成した関連図をペアで検討し合う。 ○学級で関連図を紹介し合い、交流する。 ○学習問題の結論を考える。 ・自分なりの結論を書くこと。 ・クラス全体で結論をまとめること。 <学習問題の結論> ・消費者のニーズに応えるために工場で働く人々の努力や関連工場と連携の工夫があり、消費者に届けられるまでの、輸送の工夫も行われていること。 ・世界にも工場をもち、生産を行っている。 ・人や環境のことを考えた自動車も開発している。 ・工業生産が自分たちの生活を支えている。	(知②) 〈ノートの記述〉
	10	○これまで調べ、学習したこと生かして、未来のよりよい自動車を考える。 みんなにとってよりよい未来の車を設計しよう ・学習した見方や考え方を具体化させて、公共的・環境的・安全性を関連づけて未来の自動車を設計すること。 ・設計図を作成すること。 ・根拠を明確にして、未来の自動車を考えること。	(思)③ 〈設計図〉 (関)② 〈発言・設計図〉

7 本時の学習

(1) 目標(9/10)

調べた社会的事象同士の関連を関連図にまとめ、学習問題の結論を考えノートに表現する。

(思考・判断・表現)

(2) 展開

学習活動 ・ 主な学習内容	○指導上の留意点 ◆ 具体の評価規準(評価方法) ★ 言語活動充実の手立て
1 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。 ・前時までの学習を振り返ること。 2 グループで話し合い、関連図を作成する。 ・調べて得た社会的事象同士を関連させながら線でつなげること。 ・根拠を明確にしてつなげること。 ・関連づけた社会的事象を大きな項目でまとめること。	○これまでに学習した自動車をつくる工業について、掲示物を示しながら想起できるようにする。 ○スムーズに作成できるよう、あらかじめキーワードとなる社会的事象については、カードにしておく。 ○なぜ関連させたか、その根拠を色を変えて記入させる。 ★ペアでの話し合い ①自分の作成した関連図を説明する。 ②ペアで意見交流し、一つの関連図を作成する。

3 グループでの話し合いの結果を発表し合い、意見交流をする。 ・根拠を明確にして、発表すること。 4 学習問題の結論をまとめる。	○どのような意図でカテゴリー分けをしたのかを全体で共有できるようにする。
<学習問題の結論> ・ <u>消費者のニーズに応えるために工場で働く人々の努力や関連工場と連携の工夫</u>があり、消費者に届けられるまでの、<u>輸送の工夫</u>も行われていること。 ・ <u>世界にも工場</u>をもち、生産を行っている。 ・ <u>人や環境</u>のことを考えた自動車も開発している。 ・ 工業生産が<u>自分たちの生活を支えている</u>。 ★ _____線は、B「おおむね満足できる」 評価見取りの例。	
5 学習問題の結論を発表し合い、小単元のまとめをする。	◆評価の支援と手だて 【思・判・表】 調べた社会的事象同士の関連を関連図にまとめ、学習問題の結論を考えノートに表現している。(発言・ノートの記述) △ ノートや板書をみながら、努力・工夫について確認していく。キーワードを示しながらまとめられるように個別支援する。

8 板書計画

学習課題 ペアで作成した関連図 ペアで作成した関連図 ペアで作成した関連図 ペアで作成した関連図		学習問題 ★キーワード 学習問題の結論
---	--	--